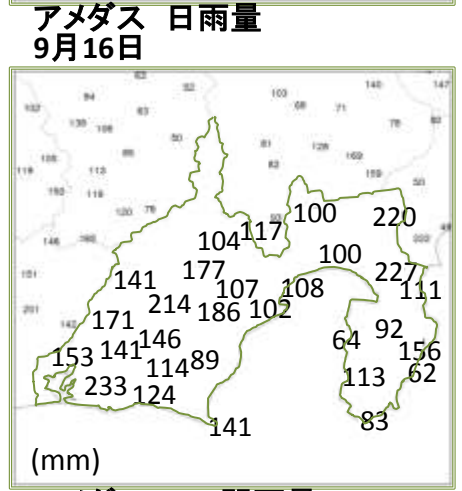
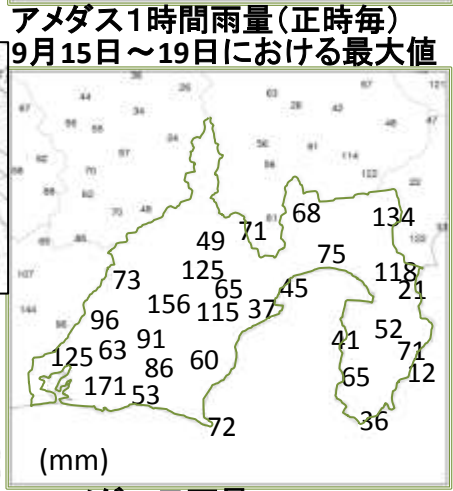
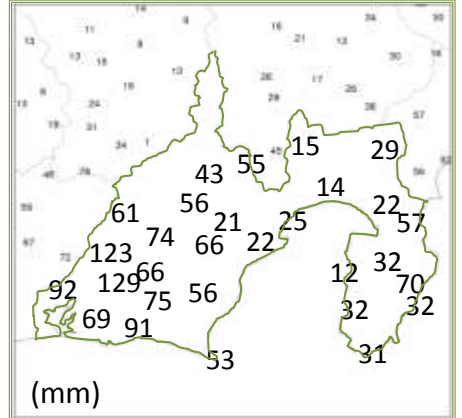
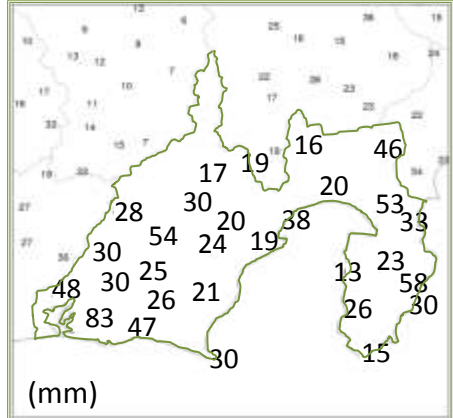


# 1994年9月15日～19日 不安定(寒気を伴った気圧の谷、日本の東海上に台風)

## 1. 気象経過

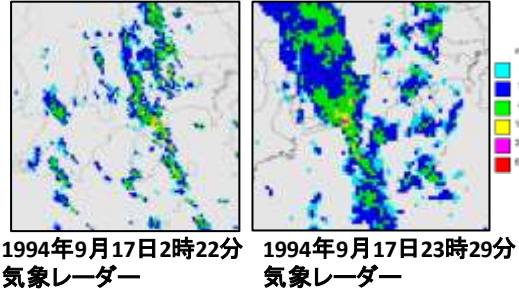
16日には、東シナ海上空に寒気を伴った切離低気圧があり、18日にかけて気圧の谷として残っていた。この間、地上付近では、太平洋側や日本海側で低気圧が発生、消滅を繰り返した。また、台風第24号が、日本の東海上を北北西進しており、台風からの暖かく湿った気塊の一部が日本付近に流れ込んでいた。このため、日本付近は、大気の状態が不安定となっていた。17日未明には、台風外側を回る南東からの暖かく湿った風が、伊豆や富士山南東の斜面で雨雲を発生、発達させ、南東-北西の線状分布となって同地域にかかり続けた。これにより、解析雨量で1時間60mmを超える非常に激しい雨が降った。また17日夜には、岐阜県付近に発生した局地的な高気圧から吹き出される風が、愛知-静岡県境の尾根を回り込むようにして浜松市付近に弱い西南西風として吹き込み、台風からの東風との間に風向、風速が大きく異なるライン(シア)を南北に形成し、暫く停滞した。これにより、**浜松測候所**では18日0時10分までの1時間に観測史上2位となる**86mmの猛烈な雨**、1時までの3時間に**186.5mmの雨量**を観測した。解析雨量では、**竜洋町(現磐田市)**で18日0時までの1時間に**110mm**を観測し、記録的短時間大雨情報を発表した。

## 4. アメダス雨量分布図



## 2. 大雨の原因、特徴

静岡県では事例の少ない、南東風の暖湿による大雨だが、シアや地形効果により、暫く停滞したことによって局地的に大雨となった。いずれの分布形状も稀なものでありながら、気象状況は特別なものではないことから、予測は難しい。今回の大雨は、発生要因を把握したうえで、どれだけ同じ気象条件が継続するかを見極めるかがポイントとなる。集中豪雨に結びつく可能性も秘めており、警戒が必要である。

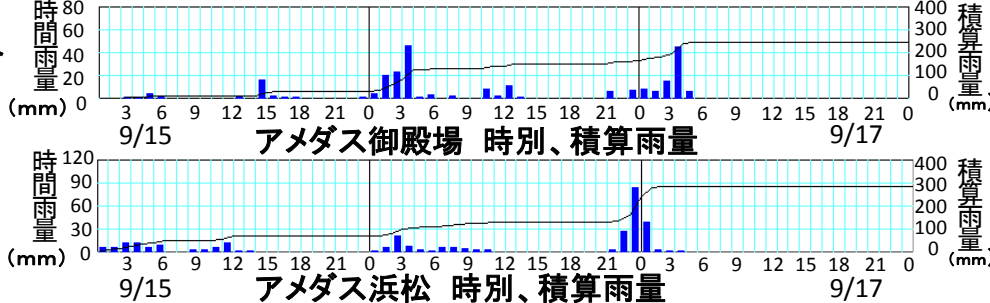


## 3. 被害概要

	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部壊壊(棟)	倒壊(棟)	軽微被害(人)	重傷(人)	死者(人)	避難者(人)	道路閉鎖(箇所)	橋りょう閉鎖(箇所)	河川閉鎖(箇所)	河川決壊(箇所)	浸水被害(箇所)	浸水被害(箇所)
全県	51	557	0	2	7	0	0	0	0	42	74	1	113	7	0	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
西部	34	467	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
東部	5	21	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
伊豆	12	48	0	0	7	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成6年における災害の状況による

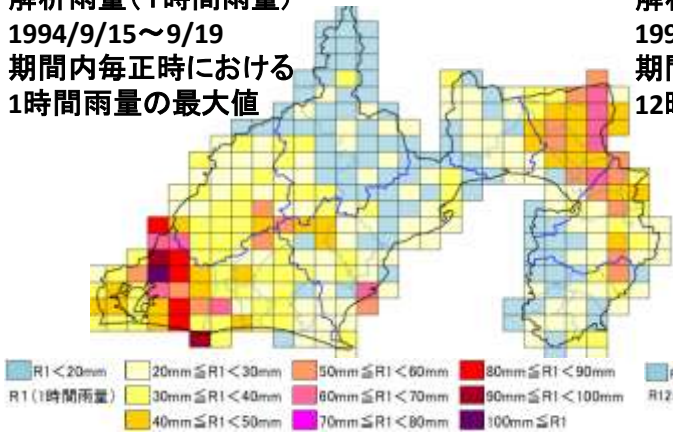
## 5. アメダス雨量時系列変化図



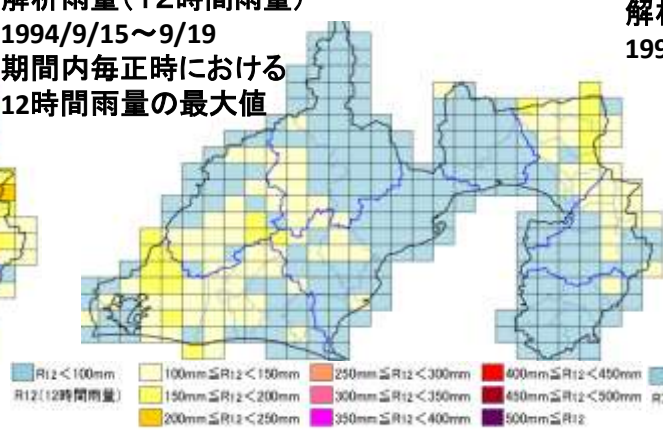


# 6. 解析雨量分布図

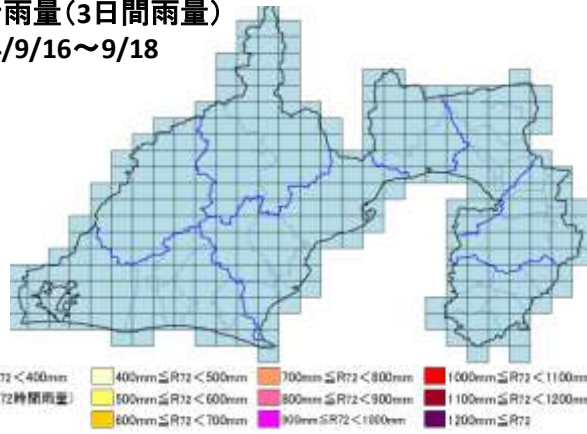
解析雨量(1時間雨量)  
1994/9/15~9/19  
期間内毎正時における  
1時間雨量の最大値



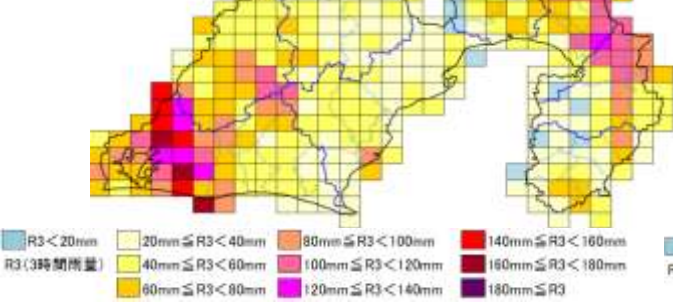
解析雨量(12時間雨量)  
1994/9/15~9/19  
期間内毎正時における  
12時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)  
1994/9/16~9/18



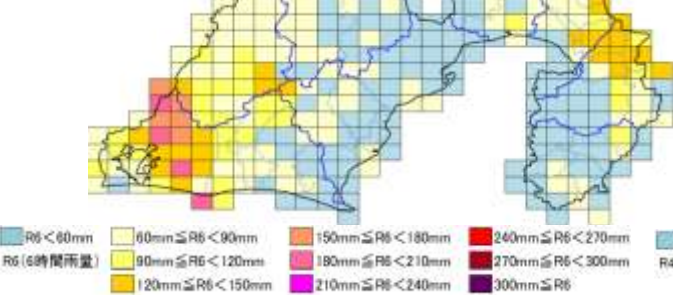
解析雨量(3時間雨量)  
1994/9/15~9/19  
期間内毎正時における  
3時間雨量の最大値



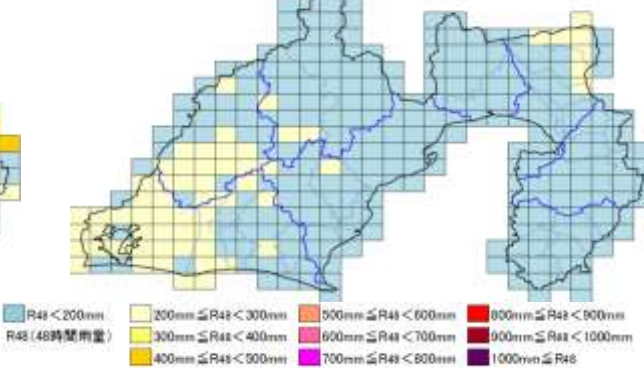
解析雨量(24時間雨量)  
1994/9/15~9/19  
期間内毎正時における  
24時間雨量の最大値



解析雨量(6時間雨量)  
1994/9/15~9/19  
期間内毎正時における  
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)  
1994/9/16~9/17



# 7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



# 解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

浸水害は静岡県の東端と西端で発生しているが、時刻や要因は異なる。浜松市を中心とした猛烈な雨や、富士山南東から伊豆北の激しい雨は、南南東-北北西に分布していることが共通した特徴として上げられる。前者は地形性、後者は風向が異なるライン(シアー)が発生、停滞したためであったが、浜松(防衛省)高度1500m付近では16日21時南南東(170°)の風、風速13m/s、相当温位335度、17日21時南東の風、風速18m/s、相当温位339度といずれの場合も暖かく湿った風が吹いていた。南東系の場合、強さ・湿り程度・継続性が着目点となる。